

人生の最期は聖芳園で…

看取り介護を通して学んだそれぞれの最期とは

看取り介護
多職種連携
それぞれの最期

キーワードについては
必ず3つ記入の事！！

北広島市高齢者総合ケアセンター
特別養護老人ホーム 聖芳園

発表者 (研究者)	主任ソーシャルワーカー 畑中 宏之
--------------	-------------------

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人 札幌厚生会	経営主体	社会福祉法人 札幌厚生会
開設年月日	1974 (昭和49) 年4月1日	所在市町村	北広島市
市町村人口	59,443 人	65歳以上人口 (高齢化率)	16,491 人 (高齢化率 27.74 %)
利用者定員数	100 人	利用者平均年齢	85.77 歳
職員数	62 人	職員数内訳	介護職 47 名 看護職 5 名
併設施設・事業	短期入所施設介護・通所介護・居宅介護支援・訪問介護・地域包括支援センター		
施設のサービスの概要	「大切にします、あなたの思い ささえます、一人ひとりの暮らし」を基本理念とし、自然環境に恵まれた場所でお客様の生活全般に必要なサービスを提供しています。		

発表の概要

<p>①取り組んだ課題 以前までの聖芳園では、経口から食事を摂取することができなければ、経管栄養を行なうこととなるが、点滴での栄養管理を行ない、最期を医療機関で迎える方がほとんどとなっていた。そんな中「誰も知っている人の居ない病院ではなく、人生の最期は聖芳園で迎えたい。(迎えさせてあげたい)」というご本人、ご家族の声が高まり、職員の中でも「こんなに長く入居している方や聖芳園を選んでくれた入居者を最期まで看取りたい」という思いが募っていった。 そこで、3年前より聖芳園で看取り介護に取り組むようになった。聖芳園における看取り介護の在り方について考え、実践し、看取りを通して学んだことについて発表する。</p> <p>②具体的な取り組み 看取り介護を開始するにあたって、新たな課題が見つかる。職員の意識統一、職種間の経験の差、看取り期の受け止め方、入居者ご本人・ご家族が望んでいることは何か、医療機関との連携等、何度も職員間で意見がぶつかりその都度話し合いを行なったり、看取り介護を実施している他の特養へ見学を行ない、聖芳園独自のマニュアルを作成し課題解決を行なった。そして、いざ看取り介護を開始したが、実施する中でも様々な問題にぶつかる。いつまで食事を提供するのか、点滴は一切行わないのか、痛みや苦しみを伴う場合の対応方法、ご家族の心の揺れを汲み取ることの難しさ、ご家族への言葉のかけ方等について、その都度職員間で話し合いを行ない乗り越えることができた。 こうして看取り介護を実践し経験する中で、その在り方について、職員一人一人が考えるようになり、『聖芳園の看取り介護』に当てはめるのではなく、『入居者それぞれの最期』に合わせた支援を行なうことができるようになった。</p>	<p>③活動の成果と評価 聖芳園で看取り介護を行なうようになってからの成果と評価 ・2年間で10名以上の方を聖芳園で看取ることができた。 ・ご家族からの感謝の声 ・決して特別なことを行なったわけではない。 ・職員の考える力の成長につながった。 ・多職種間でお互いの専門性を尊重し合えるようになった。 ・それぞれの最期について考え支援できるようになった。</p> <p>④今後の課題 聖芳園で今後も看取り介護を実践していく中で課題となること。 ・経験の少ない職員への教育 ・経管栄養を行なっている方の看取り介護</p> <p>⑤参考資料など</p>
--	---

※「応募用紙」とともにメールにて【6月22日(月)】までにご提出ください→ roushikyo@dosyakyu.or.jp まで。